

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮八幡中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的には、R4年度の比、知識・技能の数値の向上が見られた。しかし教科によっては、下回っているものもまだあるため、朝の時間や学校全体の取組として、短時間で行えるような基礎学力の向上を目指した取組を実践していきたい。また、個人差も大きいので、個別に支援が必要な生徒に対する支援方法を学校として考えていく必要がある。
思考・判断・表現	「知識・技能」の数値が少しずつ上がっているのに対して、「思考・判断・表現」の結果が結びついていない現状があるため、話し合いや発表活動を行うだけでなく、適切な見取りを行い授業内容の改善に努めるとともに、生徒主体の授業スタイルの確立を目指していく。
主体的に学習に取り組む態度	「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」の項目において、80%の肯定的な回答結果であった。教科横断的な取り組みを、学校全体として実践していき、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の項目で、85%以上の肯定的な回答が得られるように手だてを講じていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「知識・技能」において3pt向上させる。	⇒ ・スタディサプリやドリルパーク等を活用し、基本的な文法や計算問題などに繰り返し取り組む時間を設定する。 ・週に1回「朝サブ」と称し、生徒が課題を見つけて学習に取り組む時間を設定する。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査において、「思考・判断・表現」を、国語は4割以上、数学は6割以上とする。	⇒ ・授業の中に話し合い活動やスピーチ活動を積極的に位置づけ、表現する力の向上を図る。 ・1人1台タブレット端末を活用し、情報活用や発表の能力が求められる学習活動を多く設定する。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査における、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目への肯定的な回答の割合を70%以上にする。	⇒ ・本校の研究課題のESDの考え方や日々の学習を連携させ、「知る・考える・行動する」の学習過程を意識させる。 ・STEAMS TIMEを活用し、「問題発見」「チームで解決」「成果発表」の活動の中で、生徒が自ら課題を解決しようとする時間を設定する。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「知識・技能」は、R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果と比較して、+3pt、+1pt程度であった。朝の時間に取り組んでいる「朝サブ」が、知識・技能の正答率の向上につながったと考えるので、今後も継続していく。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「思考・判断・表現」は、国語・数学ともに49%程度であった。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目で90%近い肯定的な回答が見られたので、生徒の意識と結果の数値が結びつくように授業の改善を目指していく。	C
主体的に学習に取り組む態度	「PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」の項目で1時間以上使用している生徒は全体の10%程度にとどまった。30分程度の使用率の生徒が全体の大半を占めているため、家庭学習での利用時間や頻度を向上させるような工夫を今後も継続していく。	C

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語-1pt、数学±0であった。数学の「知識・技能」においては、全国の平均と比べ、上回った結果が見られた。本校で取り組んでいる、数学デーでの取組の効果が表れていると考える。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+7pt、数学+9ptであった。英語の「思考・判断・表現」においては、全国の平均と比べ、上回った結果が見られた。英語の文章を読み、英文で解答するといった問題の正答率が低かったため、学習の中で、英文で表現する活動を重視していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査の「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」や「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目に対して、85%以上の肯定的な回答が見られた。今後も、子どもの主体的な学びに繋がるように努める。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	「知識・技能」においても、R4年度さいたま市学習状況調査より国語+3pt、数学+1pt、理科+3ptであった。特に国語の「話すこと・聞くこと」、理科の「粒子」の領域に関する区分では、大きな改善が見られた。全体的にR4年度の結果を上回った区分が多い結果となった。「思考・判断・表現」の観点では、市平均と比べて下回る結果となったため、身に付けた知識を活用できる能力を獲得していけるよう授業改善に努めていく。
中2	「知識・技能」においても、R4年度さいたま市学習状況調査より国語+1pt、社会+2pt、理科+1ptであった。特に社会の「地理分野」、理科の「粒子」「地球」の領域に関する区分では、大きな改善が見られた。市平均と比べて、全教科で無回答の割合が低いことから、学習で得た知識を、活用させる指導が結びついた結果だと考える。一方で、「思考・判断・表現」の観点の結果に結びついていない現状もあるため、正しい知識を今後も身に付けさせ、得た知識を活用できるように学習に取り組ませる。
中3	「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は94%であった。「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は92%であった。授業の中で、一方的な授業ではなく、伝え合う相互的な活動を重視してきた結果だと考える。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査において、「思考・判断・表現」の平均正答率を、国語は4割以上達成することができたが、数学は4割という結果が出たため、国語・数学共に、6割以上を目指す。	⇒ ・1人1台タブレット端末を活用し、情報活用や発表の能力が求められる学習活動を多く設定する。 ・授業の形を、教える時間を精査して減らし、考えさせる時間を十分に確保できるようにしていく。
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査における、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目への肯定的な回答の割合を85%にすることができたため、今後は、学習に取り組む上で、「PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」という項目の1時間以上という項目を20%を目指す。	⇒ ・学習の予習や復習をドリルパークやスタディサプリで行えるように課題として提示する。